

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙 「みらい」
NO. 3649
16年4月26日(火)
・Fax 095-828-1953

祝！第87回メーデー 闘う労働者の団結万歳

おはようございます。

闘う仲間みなさん、
五月一日は第八七回メーデーです。働く人の団結と、権利を守るという決意で、メーデーに参加しよう。

日本の労働運動の父と呼ばれる高野房太郎は長崎の人です。明治元年に長崎市磨屋町（現在の古川町）に生まれました。彼は単身渡米し、アメリカで労働運動を学び、アメリカ労働総同盟のオルグとして帰国し、日本で初めての労働組合「労働組合期成会」を片山潜らとともにつくりまします。一八九七（明治三〇）年七月五日のことです。

高野は機関紙「労働世界」を発刊し、日本の労働者に労働組合の結成をよびかけ、「職工諸君に寄す」の檄文を出す。彼は名刺に「労働は神聖なり。組合は団結なり。わが日本の労働者諸君のなす



べきことは、組合をつくるのみ」と書きまします。いまから一二〇年も前のことです。
しかし国と資本家は労働組合を認めず、非法法として弾圧し、労組は解散させられたり、治安維持法で多くの活動家が獄に囚われたり、獄死したりします。

こうした中、日本で初めてのメーデーは一九二〇（大正

集会要求としては、労組弾圧の治安維持法一七条の撤廃、恐慌による失業の防止、八時間労働制の獲得、日本軍のシベリアからの撤兵などが掲げられました。集会終了後、参加者は治安維持法で検束された人の釈放を求めてデモを行い、警察官と衝突しました。これがメーデーの起源です。

そして一九三六（昭和十一）年の二・二六事件（軍事クーデター）の年、戒厳令が敷かれ、メーデーは強制的に中止させられ、一九四五（昭和二十）年の敗戦まで開かれませんでした。

一九四六（昭和二十一年）五月一日、復活メーデーが第一七回メーデーとして開かれます。戦後、続々と結成された労働組合の多くが参加し、東京の皇居前広場では五十万人の労働者が参加しました。

九）年の五月二日（日曜日）に開かれました。東京の上野公園に集まった一万人の労働者は、記念すべき労働者の第一歩を踏み出しますが、世界に遅れること三四年でした。

戦争が終わり、平和が来た。治安維持法も廃止され、労働組合が合法化された。労働者は自由だ！という時代の反映でした。しかし、食糧難の時代で、スローガンには「働けるだけ食べさせる」とあります。

そのときの宣言文です。「わが日本の労働者階級は十一年ぶりにメーデーに参加した。今日のメーデーこそ、日本で初めての大きさと、初めての自由に輝く、歴史的なメーデーである。我々は政府をとりかえなくてはならない。働くものの民主人民政府を打ち立てなくてはならない。そのためには、まず、労働戦線を強化しよう」と高らかに宣言し、そして戦後の二度目の総選挙で、働く人々は勝利しました。

長崎の復活メーデーは一九四七（昭和二十二年）五月一日、雨の中で開かれました。長崎市本町（現在の築町付近）の公設市場前の広場に二万人が集まり、すべての労働組合が参加し、社会党や共産党の代表があいさつをして、端島炭鉱の労働組合のブラスバンドを先頭に、市中をデモ行進しました。（長崎労働組合運動史物語から）

メーデーは労働者の祭典ですが、世界の労働者が団結を目指して統一行動をする、闘いの日です。多くの労働者がこの長崎という労働運動発祥の地の集會に参加し、働く人としての自分をもう一度見つめなおし、しっかり生きる。そのため日としたいものです。祝！第八七回メーデー。

闘う労働者の団結万歳

、第87回メーデー、
、地区労メーデー、
5月1日、9時〜五島町公園、デモ、出島橋まで。
5者共闘の地域メーデーに参加。集会終了後、水辺の森公園で懇親会、会場千円、県労連メーデー。5月1日、10時、公会堂前



、新入組合員歓迎会、4月30日（土）、19時から丸山若竹。

期間雇用パート労働者の皆さん！ 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1 集-山本, 2 集-向井, 3 集-山田, 郵便-高田, ゆうちょ銀-上筋, 東-松岡, 他支部・

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望者全員の正社員化を。

めざせ、均等待遇、なくそう差別！

ユニオンは労契法裁判に勝利するぞ！